

地域子育て支援拠点事業における子育て支援効果と課題

周防美智子* 中典子**

要旨 本研究は、地域子育て支援拠点事業における子育て支援効果と課題を検討するために、地域子育て支援拠点での支援の実態を明らかにした。実態を明らかにするために、モデルとなる地域子育て支援拠点5か所のスタッフに支援の様子についてインタビュー調査を実施した。その後、インタビュー調査に基づき質問紙を作成し、125か所の地域子育て支援拠点のスタッフに質問紙調査を実施した。77か所186人の有効回答を対象に分析をした結果、地域子育て支援拠点の強みを活かした子育て支援が母子関係や子育てに効果的な変化をもたらした。一方で、地域子育て支援拠点やスタッフにより、支援内容に差が見られるなどの課題も明らかとなった。

キーワード：地域子育て支援拠点事業、子育て支援、スタッフ、母親、子育て支援効果

1. 問題の所在

現在、核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、家族や地域における子育て機能の低下や、子育て中の親の孤立感や不安が大きな課題となっている。また、平成30年度の全国児童相談所での児童虐待相談件数^{注1)}は、前年度より26,072件増加し159,850件と過去最多となった。このような状況の中、地域の子育て支援力を高め、児童虐待の発生予防を行い、子どもの健全な育ちを支えていくことが急がれる。

厚生労働省は児童福祉法に基づき平成19年度から子育て課題の対応として、地域における子育て支援の充実のひとつとして地域子育て支援拠点事業を開始した^{注2)}。地域子育て支援拠点事業は、地域の子育て力向上を目的として乳幼児と保護者の相互交流の場を提供し、子育て関連の相談・情報提供・助言等を行うことを主な目的として始まった。

その後、地域の子育てニーズの変化などから事業の見直しが行われてきた。とりわけ、厚労省において「地域子育て支援拠点事業要綱（平成26年）」^{注3)}が定められたことにある。本要綱では、「一般型」「連携型」の2つの事業類型を設け、事業のさらなる拡充が図られた。「一般型」は、公共施設や空き店舗、児童福祉施設、小児科医院など親子が集う場

としてとして適した場所で、地域の実情に応じて、地域に開かれた活動を行い、関係機関や子育て支援活動を実施する団体などとも連携を図り事業を展開する。また「連携型」では、児童館などの児童福祉施設・児童福祉事業を実施する施設において子育て支援のための取り組みを行うものである。そして、「一般型」「連携型」に共通する基本事業として、ア)子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、イ)子育て等に関する相談、援助の実施、ウ)地域の子育て関連情報の提供、エ)子育て及び子育て支援に関する講習などの実施（月1回以上）を規定している。すなわち、乳幼児や保護者の相互交流の場の提供や子育て相談や情報提供・助言等だけでなく、地域支援の視点を持って地域の連携や交流を図ること、子育て支援拠点事業以外の子育て支援事業や母子保健事業などの連携、地域における自発的な子育て支援の取り組みにも目を向けて、地域全体で子育てを支える地域子育て支援拠点としての機能や役割を担うことが求められている。

地域子育て支援拠点事業の実施か所は平成19年に4,409か所であったが、平成29年度には7,259か所と1.6倍強に増加している。7,259か所の内訳は「連携型」が818か所、「一般型」が6,441か所と両実施か所は増加傾向^{注4)}にあり、地域子育て支援事業の

* Michiko Suwo 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科准教授 (mail:suwo@fhw.oka-pu.ac.jp)

** Noriko Naka 中国学園大学子ども学部子ども学科准教授 (mail:naka@cjc.ac.jp)

実施拡充が図られている。

2. 地域子育て支援拠点事業における研究

地域子育て支援拠点事業の支援に焦点を当てた研究には、効果的な支援をするために必要な支援者の姿勢や資質、実施場所などに関する研究と効果的支援につながる支援対象、実践内容に関する研究がある。先行研究については、「地域子育て支援拠点事業要綱（平成26年）」が定められた以降のものを対象とした。

効果的な支援に必要とされる支援者の姿勢・資質などに関する研究には、コミュニケーション力、子どもと遊ぶ・母と遊ぶことによる関係の構築（多田¹⁾、星²⁾）、行政によるスタッフ養成、拠点事業の実施を支援していく仕組みづくりの必要性（星²⁾、周防ら³⁾）、拠点の利用促進方法の検討（今井ら⁴⁾、村尾⁵⁾、伊藤⁶⁾）、利用者の思いを理解する必要性（多田⁷⁾、丸谷⁸⁾）、母親のエンパワメントに着目（中谷⁹⁾）、専門性担保のための取り組み（周防ら³⁾、村尾⁵⁾）子育て親子への支援に関する知識と経験を得るための学びの必要性（村尾⁵⁾、橋本¹⁰⁾）、親子の居場所の設定（星²⁾、中谷⁹⁾）などがある。

また、効果的な支援につながる対象、実践に関する研究には、核家族できょうだいのいる子どもとその親への支援効果（菱田ら¹¹⁾）、情報共有・緊急時の対応や情報の一元化（大野¹²⁾）、ニーズに応じた対応・他機関・施設・団体などとの連携・協働（村尾⁵⁾）、拠点事業の限界と効果的支援（周防ら³⁾）などがある。

以上の先行研究に見られるように、さまざまな視点から地域子育て支援拠点事業の効果的な支援のあり方が検討されてきたが、「地域子育て支援拠点事業要綱」が定められて時間を経っていないこと、事業の過渡期であることから支援者の姿勢や支援の実態から支援効果を検討したものは少ない。また、市町村レベルを対象とした研究が多く、都道府県単位を対象とした研究はほとんどない。

近年、児童虐待の増加や貧困、ひとり親家庭、親の精神不安、子どもの発達課題など家庭の抱える課題も多岐にわたり、地域子育て支援拠点事業に期待される機能や役割も変化している。このことから、地域子育て支援拠点は、子育て家庭の多様性を認識し、地域のニーズを理解した効果的な支援を行う必

要があり、事業拡充に重要な柱となるのは効果的な子育て支援の実践であると考ええる。

3. 研究目的

本研究では、地域子育て支援拠点事業が地域の子育て支援の中核となり、効果的な子育て支援の展開を行うことを目指すために、地域子育て支援拠点事業における支援の内容と支援者の役割、利用者（母親）の変化に着目した実態把握を行い、地域子育て支援拠点事業における子育て支援効果と課題について検討する。本研究は、平成29年度岡山県立大学地域貢献研究助成費により行った。

4. 研究方法

地域子育て支援拠点事業の活動内容を明確化するために、他の子育て支援事業との連携や保健師・助産師連携による活動、利用者を支援者へと育成、利用者が拠点事業を地域に普及するなどの子育て支援を行っている岡山県内の地域子育て支援拠点の実践に着目しインタビュー調査を実施した。調査対象者は、地域子育て支援事業の始まりから子育て支援を行っていた支援者を中心に、「一般型」6名と「連携型」1名に行った。調査は2017年6月～7月に、半構造化インタビューで実施した。インタビューの内容は、日常の支援や事例に基づいて行った。

インタビュー調査後、インタビューを文字に起こし、KJ法にもとづいて分類整理した。分類整理にKJ法を用いた理由は、川喜田¹³⁾が「不確かな情報からでも真実が見抜ける」「複雑なことがらを統合し意思決定の素材を提供」と述べているからである。インタビュー内容の分類整理を行ったところ、日ごろの支援の様子、支援者自身、利用者の様子について49ラベルが抽出された。

インタビュー調査から抽出された49ラベルを用いて調査票を作成し、岡山県内の地域子育て支援拠点事業を全対象として実態調査を行った。調査票は、利用者の状況、支援の様子について（関係づくり、利用者の見立て、支援計画、支援など）17項目とあなた自身について（自己覚知や他者理解、つながり、支援知識、支援スキル、共有、確認、連携など）26項目および利用者（母親）の変化について（利用者（母親）の行動変化や子育て変化）6項目などから作成した。回答は、各項目「ほとんどない」「たまにある」「ときどきある」「よくある」の4段

階評価で行った（表5～7の質問項目参照）。県内の地域子育て支援拠点事業では支援者をスタッフと呼んでいることから、調査票においては支援者をスタッフと表示している。以下、本文では、支援者をスタッフとする。

（1）アンケート調査対象

岡山県内の地域子育て支援拠点 125 か所を調査対象に調査票を郵送で配布し、回収は回答者から郵送にて返送してもらう形で行った。回収された調査票は、77 か所の地域子育て支援拠点（回収率 61.6%）、スタッフ 186 名であった。

（2）調査時期

調査は 2017 年 10 月に実施した。

（3）分析方法

各項目の 4 段階評価について「ほとんどない」「たまにある」「ときどきある」「よくある」の選択肢にそれぞれ、1 点、2 点、3 点、4 点を与え、これら複数の質問項目の得点の平均点を算出し支援の得点とした。SPSS 分析ソフト 20 を用いて分析を行った。

5. 倫理的配慮

本研究は、岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施している。実施にあたっては、事前に地域子育て

ネットワーク委員に研究の目的や方法などを説明し、委員から地域子育て支援事業スタッフに説明を行ってもらった。調査によって得られたデータは個人情報情報の厳重な管理を行い、研究以外の目的には用いないことなどを伝えた。

6. 調査結果

分析は、回答があった 186 名の調査票を対象に行った。

（1）対象者の属性

事業類型、以前の仕事、年齢、就労年数について表 1～4 に示す。以前の仕事について尋ねたところ、約 7 割が子ども関係の仕事をしていた経験者であり、保育士や教員、社会福祉士などの有資格者であった。年齢は 50 歳代がもっと多く、就労年数は 7 年以上が半数を占め、地域子育て支援拠点事業に継続して携わっていることが分かる。

（2）アンケート調査の結果

①利用者の状況

地域子育て支援拠点の役割、課題を検討するために、利用者状況についても調査を行った。利用者については、母と子だけでなく、約 7 割の拠点で父母と子の利用が見られた。また、新生児期を過ぎたばかりの早い時期から来所している親子の支援経験があるスタッフは約 8 割であった。拠点利用者の約 7

表 1 事業累計

一般型	連携型
160 人 (86%)	26 人 (14%)

表 2 地域子育て支援拠点以前の仕事

子ども関係	子ども関係以外
134 人 (72%)	52 人 (28%)

表 3 回答者の年齢

20 歳代	6 人
30 歳代	42 人
40 歳代	45 人
50 歳代	64 人
60 歳代	23 人
70 歳代	5 人
不明	1 人
合計	186 人

表 4 就労年数

1 年未満	26 人 (14%)
1～3 年	32 人 (17.2%)
3～5 年	23 人 (12.4%)
5～7 年	18 人 (9.7%)
7 年以上	84 人 (45.2%)
不明	3 人 (1.5%)

表5 日頃の支援について (N=186) 単位：％

	ほとんどない	たまにある	ときどきある	よくある
1 利用者の話を聴く	3.3	5.9	21.0	69.9
2 利用者信頼関係を築く	4.9	5.9	29.6	59.7
3 利用者の情報収集をする	9.2	22.6	34.9	33.3
4 利用者の情報共有をする	7.6	15.6	31.7	45.2
5 スタッフ間の役割分担をする	13.5	8.6	29.6	48.4
6 支援目標を立てる	19.8	15.6	36.0	28.5
7 利用者に自己決定を促す	24.2	19.4	26.3	30.1
8 他機関との連携をする	17.2	21.0	34.9	26.9
9 家族関係の理解ができている	19.4	26.9	44.1	9.7
10 情報収集ができている	17.2	19.9	47.8	15.1
11 スタッフ間の情報共有ができている	5.4	4.3	22.6	67.7
12 聴く力がある	11.3	11.3	48.9	28.5
13 拠点の環境調整ができている	10.8	8.1	41.9	39.2
14 支援のポイントがわかる	15.1	12.9	52.7	19.4
15 母子の変化に気づきがある	6.5	18.8	48.4	26.3
16 利用者との距離が図れている	9.1	12.4	47.8	30.6
17 支援者としての自覚がある	8.7	5.4	33.9	52.2

表6 あなた自身について (N=186) 単位：％

	ほとんどない	たまにある	ときどきある	よくある
1 自分を知ることができる	7.0	14.5	52.7	25.8
2 自分の考えを整理することができる	18.8	11.3	56.5	24.7
3 自己課題を知ることができる	9.6	11.8	46.2	32.3
4 自分の強みと弱みを知ることができる	9.7	11.8	44.1	34.4
5 観察することができる	8.6	10.8	43.5	37.1
6 他者の話を聴くことができる	5.4	5.4	35.5	53.8
7 自分の思いを伝えることができる	7.0	17.7	50.0	25.3
8 当事者となることができる	8.1	18.3	50.0	23.7
9 他機関となることができる	18.4	18.8	41.9	19.9
10 スタッフ間でつながることができる	9.7	4.8	22.6	67.7
11 子どもの発達を理解している	5.4	4.1	54.8	30.6
12 暴力・虐待への介入方法を理解している	31.7	25.3	34.9	8.1
13 伝え方を理解している	10.8	24.7	47.8	15.1
14 社会資源を理解している	22.0	24.2	42.5	11.3
15 多様性(多文化、価値観)を理解している	15.6	17.7	46.8	19.9
16 俯瞰的にみる力をつけている	23.7	22.0	44.1	10.2
17 気付き力をつけている	9.6	17.2	51.6	21.5
18 理念を共有している	11.8	15.6	43.0	29.6
19 目的を共有している	10.7	8.1	43.0	38.2
20 会議の進め方を理解している	15.6	21.0	40.3	22.6
21 スタッフの悩みの受け皿がある	11.8	18.3	43.5	25.8
22 記録のとり方を理解している	15.6	14.5	47.3	22.6
23 ふり返り方を理解している	11.9	15.1	50.0	23.1
24 情報共有のあり方を理解している	10.7	10.2	43.0	36.6
25 他機関と連携している	14.6	18.8	41.4	25.3
26 他の拠点と連携している	20.4	17.2	41.3	22.0

表7 利用者(母親)の変化について (N=186) 単位：％

	ほとんどない	たまにある	ときどきある	よくある
1 アドバイスを受け入れるようになる	10.2	14.0	55.9	19.9
2 他者への感謝をするようになる	16.8	14.5	50.5	18.3
3 他者を信頼するようになる	15.6	17.7	52.7	14.0
4 落ち着いてくる	12.8	14.5	52.2	20.4
5 子育ての知識を獲得する	10.7	10.8	53.8	24.7
6 自己肯定感がもてる	15.0	18.3	54.3	12.4

割が、利用継続者であった。利用者は、子育ての交流を求めて来所すること多いが、親子関係や家族関係で問題を抱えていたり、気持ちが不安定であったり、人間関係を築くのが苦手であったり、子育てに自信がないといった課題を抱えた利用者もいた。課題を抱えた利用者の相談支援を約6割（117人／186人中）のスタッフが経験している。

②日頃の支援状況

日頃の支援のようすについて尋ねた結果を、表5に示した。数値は186名についての割合を示している。質問の多くの項目で「よくある」「ときどきある」が8割以上の高い数値を示しているが、『支援計画を立てる』、『利用者に自己決定を促す』、『情報収集ができていく』、『他機関との連携をする』、『家族関係の理解ができていく』の項目で少し低い数値となった。これらの状況から、スタッフ間における支援の可視化や地域連携について今後の課題であると思われる。

③あなた自身について

あなた自身についての回答状況を表6に示した。多くの項目で「よくある」「ときどきある」が7～8割以上を示した。しかし連携の項目である『他機関とつながることができる』、『他機関と連携している』、『他の拠点と連携している』では「よくある」「ときどきある」の回答が低い値を示した。また、利用者理解や支援方法に関する『子どもの発達を理解している』、『暴力・虐待への介入方法を理解している』、『伝え方を理解している』、『社会資源を理解している』、『多様性（多文化・価値観）を理解している』、『俯瞰的にみる力を付けていく』の項目や情報共有するために必要となる『会議の進め方を理解している』の項目で少し低い状況であった。地域子育て支援拠点のスタッフとして利用者理解や地域連携の理解における課題が示唆された。

④利用者（母親）の変化について

地域子育て支援拠点を利用し、他の親子との交流やスタッフとの関係で見られる利用者（母親）変化について質問した結果を表7に示した。多くのスタッフが、利用者の行動の変化や子育て変化を実感している。

⑤日頃の支援状況と利用者（母親）の変化との関連

日頃の支援状況と利用者（母親）の変化にどのような関連があるのかを明らかにするために各項目との相関分析を行った（表8）。相関関係は、すべて正の相関で負の相関は見られなかった。よって、2つの変数間において、一方の変数の得点が高くなればなるほどもう一方も高くなり、それが関連しているという統計学的な状況が見られた。利用者（母親）の変化における「他者を信頼するようになる」と日頃の支援状況の「スタッフ間の役割分担」、「拠点の環境整備ができていく」の2項目間では（ $p < .05$ ）の有意差であった。それ以外の利用者（母親）変化とスタッフの支援状況の間では、すべてに有意な相関（ $p < .01$ ）が見られた。スタッフの支援が子育て支援に効果的な影響を与えることが示唆された。

⑥あなた（スタッフ）自身と利用者（母親）の変化との関連

あなた自身と利用者（母親）の変化との関連について明らかにするため、各項目との相関分析を行った（表9）。⑤の結果と同じく、相関関係は、すべて正の相関で負の相関は見られなかった。よって、2つの変数間において、一方の変数の得点が高くなればなるほどもう一方も高くなり、それが関連しているという統計学的な状況が見られた。利用者（母親）変化において、スタッフ自身との間では、有意差が見られなかった項目もあった。しかし、スタッフの自己覚知や他者理解、つながり、支援知識、支援スキル、共有など利用者（母親）変化に強い相関があることは明らかである。

7. 考察

1) 地域子育て支援拠点事業における子育て支援効果

研究の結果、地域子育て支援拠点の支援には、利用親子の多様性に合わせた支援、さらに地域子育て支援拠点のスタッフに求められる専門性が必要とされることが示唆された。そこで、地域子育て支援拠点の子育て支援効果について、利用者（母親）の変化と支援状況やスタッフの状況から考察を行うこととする。

①利用者（母親）の変化と地域子育て支援拠点の支援状況

利用者は、親子関係や家族関係で問題や不安定な状況であったり、人間関係を築くのが苦手であった

表 8 日頃の支援と利用者（母親）の変化との相関分析（全体、N = 186）

日頃の支援の項目	利用者(母親)の変化の項目		アドバイスを受け 入れるようになる	他者への感謝をす るようになる	他者を信頼するよ うになる	落ち着いてくる	子育ての知識を獲 得する	自己肯定感がもて る
	平均値	SD	2.80	2.62	2.75	2.75	2.87	2.55
			0.991	1.124	2.471	1.041	1.034	1.070
利用者の話を聴く	3.56	0.791	.551**	.465**	.239**	.512**	.477**	.395**
利用者とは信頼関係を築く	3.41	0.904	.563**	.468**	.180*	.454**	.482**	.427**
利用者の情報収集をする	2.89	1.039	.583**	.544**	.242**	.540**	.570**	.535**
利用者の情報共有をする	3.11	1.031	.530**	.471**	.260**	.515**	.562**	.477**
スタッフ間の役割分担をする	3.09	1.150	.523**	.452**	.187*	.487**	.469**	.541**
支援目標を立てる	2.68	1.177	.511**	.412**	.208**	.412**	.422**	.466**
利用者に自己決定を促す	2.54	1.289	.539**	.554**	.260**	.557**	.547**	.523**
他機関との連携をする	2.68	1.121	.511**	.431**	.212**	.440**	.522**	.460**
家族関係の理解ができています	2.39	1.009	.533**	.541**	.261**	.540**	.502**	.518**
情報収集ができています	2.55	1.066	.529**	.552**	.258**	.552**	.553**	.576**
スタッフ間の情報共有ができています	3.50	0.908	.532**	.419**	.201**	.469**	.544**	.381**
聴く力がある	2.91	1.004	.499**	.498**	.196**	.455**	.551**	.522**
拠点の環境調整ができています	3.04	1.054	.427**	.383**	.181*	.418**	.491**	.439**
支援のポイントがわかる	2.70	1.078	.505**	.651**	.215**	.583**	.608**	.665**
母子の変化に気づきがある	2.92	0.903	.575**	.606**	.263**	.612**	.643**	.552**
利用者との距離が図れている	2.95	1.020	.573**	.635**	.265**	.604**	.594**	.643**
支援者としての自覚がある	3.26	1.023	.520**	.517**	.206**	.517**	.585**	.501**

表内の数値は相関係数を表す。 **p<.01, *p<.05

表 9 あなた（スタッフ）自身と利用者（母親）の変化との相関分析（全体、N = 186）

あなた《スタッフ》自身について	利用者(母親)の変化の項目		アドバイスを受け 入れるようになる	他者への感謝をす るようになる	他者を信頼するよ うになる	落ち着いてくる	子育ての知識を獲 得する	自己肯定感がもて る
	平均値	SD	2.80	2.62	2.75	2.75	2.87	2.55
			0.991	1.124	2.471	1.041	1.034	1.070
自分を知ることができる	2.95	0.905	.470**	.458**	.284**	.450**	.472**	.405**
自分の考えを整理することができる	2.94	0.937	.506**	.467**	0.141	.484**	.578**	.475**
自己課題を知ることができる	3.13	2.433	.174*	.164*	0.08	.177*	.198**	.178*
自分の強みと弱みを知ることができる	2.97	1.057	.408**	.328**	.161*	.372**	.457**	.300**
観察することができる	3.05	1.007	.450**	.410**	.184*	.358**	.563**	.414**
他者の話を聴くことができる	3.35	0.907	.408**	.289**	.187*	.349**	.419**	.340**
自分の思いを伝えることができる	2.91	0.917	.492**	.418**	.193**	.475**	.500**	.388**
当事者となることができる	2.86	0.943	.427**	.460**	.203**	.400**	.413**	.431**
他機関となることができる	2.60	1.067	.343**	.328**	0.105	.372**	.387**	.329**
スタッフ間でつながることができる	3.51	0.878	.316**	.245**	.160*	.316**	.332**	.255**
子どもの発達を理解している	3.08	0.863	.404**	.349**	.159*	.407**	.436**	.349**
暴力・虐待への介入方法を理解している	2.13	1.075	.304**	.351**	.151*	.363**	.381**	.381**
伝え方を理解している	2.59	1.011	.437**	.473**	.238**	.443**	.547**	.480**
社会資源を理解している	2.36	1.088	.353**	.439**	.187*	.442**	.442**	.436**
多様性(多文化、価値観)を理解している	2.63	1.128	.350**	.452**	.236**	.469**	.462**	.471**
俯瞰的にみる力をつけている	2.31	1.134	.320**	.462**	.190**	.468**	.437**	.449**
気付き力をつけている	2.80	0.974	.446**	.464**	0.138	.420**	.510**	.417**
理念を共有している	2.84	1.067	.395**	.330**	.170*	.393**	.466**	.379**
目的を共有している	3.04	1.067	.416**	.350**	.170*	.344**	.524**	.398**
会議の進め方を理解している	2.81	2.483	.180*	0.004	0.017	-0.026	0.022	0.011
スタッフの悩みの受け皿がある	2.78	1.050	.446**	.429**	.218**	.410**	.505**	.475**
記録のとり方を理解している	2.73	1.068	.341**	.436**	.221**	.473**	.388**	.398**
ふり返り方を理解している	2.80	1.018	.405**	.435**	.229**	.519**	.463**	.429**
情報共有のあり方を理解している	3.02	1.034	.363**	.370**	.252**	.406**	.458**	.355**
他機関と連携している	2.75	1.036	.320**	.337**	.153*	.324**	.398**	.309**
他の拠点と連携している	2.62	1.085	.321**	.338**	.169*	.351**	.359**	.327**

表内の数値は相関係数を表す。 **p<.01, *p<.05

り、子育てへの不安といった課題を抱えている場合もある。地域子育て支援拠点では、それぞれの子育て課題に対応すべく、利用者（母親）との関係づくりを丁寧に行いながら、課題解決に向けスタッフ間で情報提供を行い、支援目標を立て、支援機関とつないだり、福祉的な視点をもってニーズに対応していることがうかがえる。また、利用者（母親）は、

地域の身近な場所に支援を求めて、ハードルの高い地域子育て支援拠点を利用していることが考えられる。そのため、利用者（母親）のニーズに合わせた見立て（スクリーニングを含む）、地域連携を含めた支援が重要であり、それは親子の課題の早期発見・早期対応につながり、さらなる効果的な子育て支援を行えると考えられる。

②利用者（母親）変化とスタッフの状況

地域子育て支援拠点のスタッフは、単なる交流の場、子育て相談といった支援だけでなく、複雑な背景から生じたさまざまなニーズに対応しなければならないことが明らかとなった。スタッフは、個人の資質の向上に努めながら、より良い支援に努めていることが推測される。また、今までの経験や体験で培われてきたスキルを活用しながら、新たに起きる子育ての課題に向き合い、個別支援や集団支援などを通して子育て支援を行っている。共に考え共に歩むスタッフの姿勢、すなわち地域子育て支援拠点のスタッフとしての専門性を活かし、地域の身近な子育ての支えてとして関わっていることが、利用者（母親）との関係性を育て、利用者（母親）変化につながっていると考えられる。

2) 地域子育て支援拠点事業における課題

日頃の支援状況やあなた自身についての回答からも明らかになっているが、スタッフの対人援助力につながる「家族関係の理解」、「子どもの発達理解」、「暴力・虐待への介入方法の理解」、「伝え方の理解」、「利用者に自己決定理解」、「社会資源の理解」、「多様性（多文化・価値観）の理解」、「俯瞰的にみる力」や地域連携に必要となる「情報収集」、「支援計画を立てる（見立てる）」、「他機関との連携」などの項目において、それぞれの地域子育て支援拠点やスタッフによって差が見られる。すなわち、利用する地域子育て支援拠点によって、提供される支援に差が生じていることは、事業課題である。

先にも述べたように、地域子育て支援拠点を利用する母親の育児力、環境課題、子どもの育ちの課題は、さまざまな背景・環境課題が複雑に絡み合っている。地域子育て支援拠点事業において、子育て支援の交流の場以上の支援を提供するためには、スタッフに対人援助技術や福祉支援の知識や技術が求められる。スタッフの資質向上は、地域子育て支援拠点事業の支援向上や地域の子育て支援につながると考える。スタッフが母親と信頼関係を築く過程で、母親や子どもの困り感、課題に気づき、他機関と連携する必要があるのかどうかを判断する力（スクリーニング力）も必要となる。このスクリーニング力が社会的課題である児童虐待の発生予防、早期発見につながることは言うまでもない。地域子育て支援拠点事業の拡充に向けて、各地域子育て支

援拠点における子育て支援、スタッフの資質に差が生じることは課題であり、スタッフ養成への対応を急がなければならない。子育て支援に大きな差が生じないような養成プログラムが今後必要になると思われる。

3) 地域子育て支援拠点事業における効果的支援要素の検討

アンケート調査やインタビュー調査の結果から、地域子育て支援拠点事業における子育て支援の効果的支援要素を研究協力者らと抽出、検討し関連図を作成した（図1）。効果的支援要素の領域には『地域子育て支援拠点事業の強み』、『支援「つなぐ」』、『支援充実の準備』、『支援に活用』、『地域子育て支援拠点事業充実』の5つがあると考えられる。各領域の効果的支援要素は、利用者（母親）の変化をもたらす要素である。言い換えれば、抽出した効果的支援要素は地域子育て支援拠点事業において効果的

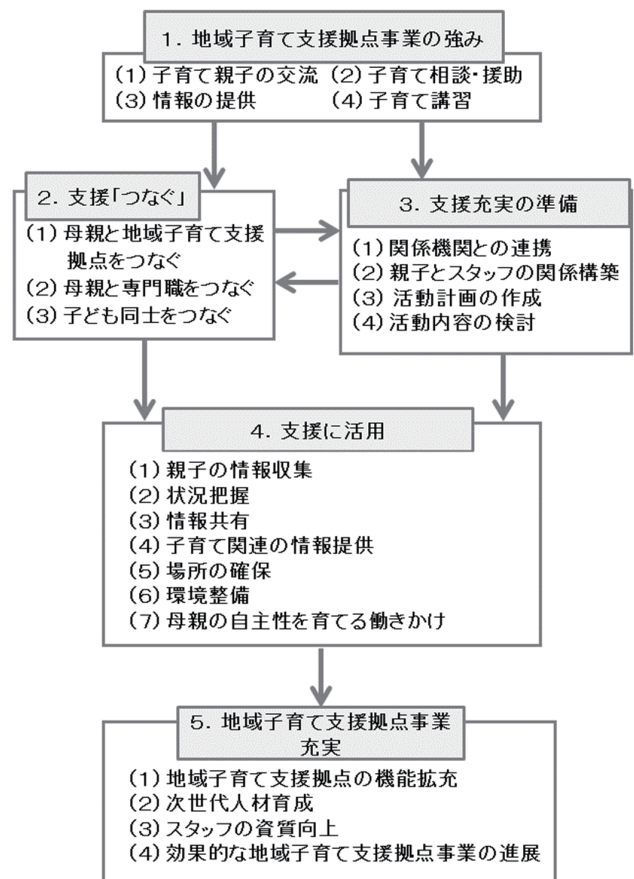


図1 地域子育て支援拠点事業の子育て支援効果の関連図

な支援を行うために実践すべき具体的な支援内容である。

『地域子育て支援拠点事業の強み』には「地域子育て支援拠点の強み」である地域子育て支援拠点事業要綱の基本業務（子育て親子の交流の場、子育て等に関する相談、援助、情報の提供など）が存在する。地域子育て支援拠点事業の目的である『支援「つなぐ」』の領域では「母親と地域子育て支援拠点をつなぐ」、「母親と専門職をつなぐ」、「子ども同士をつなぐ」の効果的支援要素がある。また、効果的な子育て支援を目指すための『支援充実の準備』の領域には、「関係機関との連携」、「親子とスタッフの関係構築」、「活動計画の作成」、「活動内容の検討」の効果的支援要素が必要となる。そして、効果的に子育て支援を実践していくための『支援に活用』の領域では、「親子の情報収集」、「状況把握」、「情報共有」、「子育て関連の情報提供」、「場所の確保」、「環境整備」、「母親の自主性を育てる働きかけ」の効果的支援要素が存在すると考える。

さらに、地域子育て支援拠点事業における子育て支援の効果を向上させるための『地域子育て支援拠点事業充実』の領域では「地域子育て支援拠点の機能拡充」、「次世代人材育成」、「スタッフの資質向上」、「効果的な地域子育て支援拠点事業の進展」という効果的支援要素が重要となる。

実際には、地域子育て支援拠点事業の強みを活かし、効果的な支援を展開することで、地域子育て支援拠点事業の充実、すなわち地域子育て支援拠点事業が目標とする地域の子育て力向上につながると考える。

8. 本研究の限界と課題

本研究では、地域子育て支援拠点事業の子育て支援の効果と課題を、支援の実態と利用者（母親）の変化に着目しながら検討を行った。しかし、母親の変化についてはスタッフの評価であり、利用者（母親）が回答したものでないところに研究の限界がある。

地域子育て支援拠点事業の拡充が図られる中で、現状の子育て支援効果と課題を明らかにしなければ、地域の求める地域子育て支援拠点事業への進展は難しいと考えている。そして、増加する子育て課題に親子への直接支援が可能なスタッフのスキルアップ、実施主体である市町村の拠点やスタッフへ

のサポート体制の強化・取り組みが重要である。

今後は、利用者への調査や市町村のサポート体制などについても調査を実施し、地域子育て支援拠点事業における子育て支援効果の向上策を探索したいと考える。

注

（注1）厚生労働省報告書：平成30年度の全国児童相談所における児童虐待相談対応件数は、速報値として159,850件（前年度比26,072件増）と公表された。これは、過去最多で、統計を取り始めた1990年度から28年連続で増加している。

（注2）厚生労働省 ホームページ 地域子育て支援事業 2017

（注3）厚生労働省「地域子育て支援事業の実施について」2018・3

（注4）厚生労働省「地域子育て支援拠点事業平成29年度実施状況」

文献

- 1) 多田幸子 (2017)「地方都市における地域子育て支援拠点事業施設の実践」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』12, pp.19-38
- 2) 星美和子他 (2014)「地域子育て支援拠点における困難や悩みをもつ親の支援に関する考察－支援職の『語り』の分析－」『保育学研究』52 (3), pp.22-33
- 3) 周防美智子他 (2017)「地域子育て支援拠点事業における支援に関する研究」『岡山県立大学保健福祉学部紀要』24 (1), pp.81-89
- 4) 今井昭仁, 伊藤篤 (2017)「神戸市の大学等が運営する地域子育て支援拠点事業の利用状況と展望」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』10 (2), pp.135-140
- 5) 村尾康弘 (2017)「熊谷市内の子育て支援センターの現状と課題－アンケート調査を中心に－」『立正大学社会福祉研究所年報』19, pp. 5-12
- 6) 伊藤篤他 (2016)「『子育て支援を契機とした共生のまちづくり』実践の意義と課題－『のびやかスペースあーち』用実態調査単純集計からの考察(2)－」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』10 (1), pp.93-108
- 7) 多田幸子 (2017)「地方都市における地域子育て支援拠点事業施設の実践」『山梨県立大学人間福祉

学部紀要』12, pp.19-38

- 8) 丸谷充子 (2016)「子育て支援者がとらえる親子の成長－子どもひろばの子育て支援者へのアンケート調査から－」『浦和論叢』54, pp.89-105
- 9) 中谷奈津子 (2014)「地域子育て支援拠点事業利用による母親の変化－支援者の母親規範意識と母親のエンパワメントに着目して－」『保育学研究』52 (3), pp.9-21
- 10) 橋本真紀 (2014)「地域子育て支援拠点事業の実践類型に関連する要因の検討－地域支援活動を積極的に展開する群に着目して－」『教育学論究』6, pp.141-151
- 11) 菱田博之, 齊藤勇紀, 及川直樹 (2017)「利用者の実態を踏まえた地域子育て支援拠点事業の効果についての一考察－施設を利用する母親の『子育て肯定感』から－」『社会福祉科学研究』6, pp.103-108
- 12) 大野智 (2017)「熊谷市の子育て支援の現状と課題－就学前の子どもがいる保護者を中心として－」『立正大学社会福祉研究所年報』19, pp.64-70
- 13) 川喜田二郎 (1970)『続・発想法 KJ法の展開と応用』中央公論新社

The Effectiveness and Challenges of Child Care Support From Regional Childcare Support Center Programs

MICHIKO SUWO, NORIKO NAKA

Abstract

The goal of this project was to investigate the effects of childcare support provided by regional childcare support centers. Interviews were conducted with the staff of five childcare support centers chosen as models regarding the actual status of support. After that, a survey was sent to staff from 125 regional childcare support centers using a questionnaire prepared from the results of the interviews; 186 valid responses from 77 centers were received. The result of the analysis of the 186 responses suggested that the support from the centers brought about effective changes in mother and child relationships and childcare.

However, issues, such as differences in support content by different centers and different staff were also identified.

Keywords : Regional childcare support center program, childcare support, staff, mother , effects of childcare support